
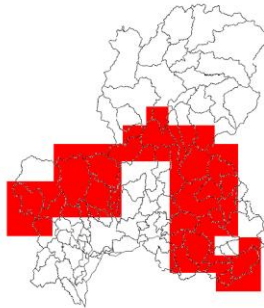


ツルキンバイ	<i>Potentilla rosulifera</i> H.Lév.	準絶滅危惧
		バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。	写真(岐阜県博物館)
形態の特徴	走出枝がありわずかに柔毛がある1年草または短命な多年草。山地の林内や茂みに生える。地下茎は短く、直立し肥厚しない。花茎は長さ20cm以下。葉は3小葉でごく稀に2付属小葉片が着く。小葉は菱状心形、鋭頭-短鋭尖頭、やや深く尖った歯がある。花は5-6月、5数性で、集散花序に数花着き、径2cm弱。萼片は狭卵形-広披針形、副萼片は披針形。花弁は黄色、倒卵形。雄蕊20。雌蕊多数。	
生態的特徴	ブナ帯落葉広葉樹林の山地の林内や茂み、林縁に生育する。	
分布状況	本州、四国、九州。朝鮮、中国。県内のブナ帯山地にやや稀。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。シカによる食害。	
保全対策	山林管理の促進による林縁の低～中茎草地の維持、林床の日照確保。シカの個体数管理による食害抑制。	
特記事項	種小名は飯沼愨齋に因む。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 33. Potentilla L. N. Naruhashi	

文責:高野裕行